

トピックス

高校生通学費補助金制度が始まりました

平成30年度より、自宅から飛驒地域内の高等学校へ通学する高校生の保護者に対し下記の補助金を交付しています。

- 公共交通機関（列車またはバス）で通学する方に対する補助補助額：通学定期券購入費の1/3
- 原動機付自転車で通学する方に対する補助補助額：通学費相当額の1/4
- 保護者の送迎等により通学する方に対する補助補助額：通学費相当額の1/4
- 下宿等を利用して通学する方に対する補助補助額：通学費相当額の1/3

※上限は、全て合わせて年額8万円

申請方法、必要書類など詳しくは市ホームページをご覧ください。

問合せ先 教育総務課 ☎35-3153
 広報ID 1009647



暮らしを守る私たちの足 地域に根付いた 公共交通を目指して

より便利で効率的なバスにするための取り組み

本市は広大な面積を有し、標高差も大きいいため、自家用車や公共交通による移動に頼らざるを得ません。また、冬期は積雪により徒歩や自転車での移動が困難であることが多く、移動制約者（自力で移動できる者のうち、自分自身が自由に使える交通手段を持たない者）にとっては公共交通が必要不可欠な地域といえます。

このため、市民が通勤や通学、通院、買物ができるなど最低限の「生活環境の質」を確保するため、交通事業者等との連携により地域公共交通を整備しています。

また、公共交通を将来に渡って持続可能とするため、観光客も含めた利用促進を図るほか、利便性向上等に向けた見直し、関係機関との協働によるイベント等により啓発に取り組んでいます。

バスの利用状況

平成29年度ののらマイカー、まちなみバス、たかね号の利用者数は、約16万人で、前年度比較では約1千人の減少となりました。減少した理由は、主に通学や通園の利用者の減少による影響によるものです。また、平成29年度の1便あたりの平均利用者数は約4.0人で、うち高山地域は7.8人、全支所地域の平均は1.5人となっております。

また、バスの運行については、約2億1千万円の経費がかかっています。

公共交通は市民の皆さまの利用によって維持されます。ぜひ、積極的な利用をお願いします。

高齢化に伴う公共交通の必要性

高齢化の進展に伴い、移動制約者の増加も予測されるため、公共交通の必要性は今後ますます高まると考えられます。

近年では、高齢ドライバーが主な原因者となる交通事故の割合が増加していることから、高齢者の運転免許証の自主返納が注目されています。自主返納者を対象としたサービスも活用いただき、安全・安心な公共交通の利用をご検討ください。

平成27年度～平成29年度利用実績

単位：人

区分	H27		H28		H29		対前年比増減		
	年間利用者	1便あたり平均利用者	年間利用者	1便あたり平均利用者	年間利用者	1便あたり平均利用者	年間利用者	1便あたり平均利用者	
まちなみバス	37,593	5.3	38,235	5.4	37,453	5.3	-782	-0.1	
のらマイカー（高山地域）	89,422	7.9	87,275	7.7	88,245	7.8	970	0.1	
のらマイカー（支所地域）	丹生川	4,910	1.8	4,953	1.8	3,677	1.4	-1,276	-0.4
	清見	11,735	2.7	9,475	2.2	10,494	2.4	1,019	0.2
	荘川	4,923	2.5	4,652	2.7	3,746	2.2	-906	-0.5
	一之宮	460	1.8	646	1.7	557	1.6	-89	-0.1
	久々野	6,767	1.3	5,511	0.9	5,345	0.9	-166	0.0
	朝日	190	1.4	172	1.3	186	1.3	14	0.0
	高根	3,335	1.2	3,185	1.1	-	-	-	-
	国府	4,068	1.4	4,402	1.5	4,856	1.6	454	0.1
たかね号	上宝	1,570	2.0	1,637	2.1	1,674	2.2	37	0.1
	奥飛驒高根	-	-	-	-	2,938	0.7	-	-
合計	164,973	4.2	160,143	4.0	159,171	4.0	-972	0.0	